

復命書

2011年 9月 7 日

新政会 代表
望月 厚司 様

議員名 佐藤成子

下記のとおり、政務調査費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2011年8月27日(土)28日(日)29日(月)	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	第51回社会教育研究全国集会(静岡集会)
	(2) 対 応 者	主催 社会教育推進全国協議会
3 目 的	東日本大震災や原発等計り知れないことが起きても、共に生きる社会を目指して、学習の自由と権利の実現を！の誘いに、足元を見つめてみたいと思い参加する。静岡の社会教育、生涯学習はどうか全国と比較してみたい。	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>今年のスローガンは、 ともに生きる社会をめざし、学習の自由と権利の実現を！ ～東日本大震災ヲ受けとめめて～</p> <p>全体会・課題別学習会・分科会に分かれている。第14分科会自治体改革と社会教育制度に参加した。</p> <p>基調提案 姉崎陽一氏 北海道大学教授</p> <p>地域主権改革とは何かを提起され、ナショナルミニマムを可能な限り縮減し、代わって自治体に責任を押し付ける“過小資源と過大責任”を推し進める改革の性格が指摘された。こんな中、住民の最善の利益の探求が問われているとはなされた。</p>	

社会教育報告

山田健司氏 静岡図書館友の会

合併による自治体の規模拡大する中、発表された“静岡市図書館への指定管理者制度導入”。この発表に端を発した、導入反対の活動。唐突に発表された“方針”は、「始め一か所への試行導入」という表現でしたが、その後五年かけて、地域館に導入していく。というものでした。静岡市図書館は、自治体公共サービス満足度調査で、全国2位。行政側の、住民サービスの向上の目的は理解しがたいものでした。その後、静岡市の図書館を良くする会へ発展。地元の地方紙などでもとりあげられ、市民に大きな反響を呼び、これらを検討している、図書館協議会の傍聴席をいつも埋めました。又、その後、図書館職員と協議会委員とで検討・勉強会を重ね、静岡市の図書館の目指すべき方向を提言。図書館の運営は直営にすべきであるの報告書にまとめた。その結果、導入は一時凍結となった。これらの活動を通して、更に図書館に積極的に提言し、協働していく組織として、平成20年「友の会」が発足。やっと平成23年、経緯費削減や効率の持求める事は図書館にはなじまないの理由で、直営方式が望ましいの決論にいたった。ちょうど、統一地方選挙で、新市長が誕生。選挙期間中、公開質問状も出し、図書館の直営の方向の布石を造った。

討議

基調提言と報告をうけ、各地の自治体改革と社会教育をめぐる現状が語られた。(かなり盛り上がった、一部紹介)

横浜市：中央図書館1館・17の地域図書館がある。平成22年から中央と地域2館のカウンター業務が外部委託に。又1か所は指定管理制度が導入され、図書館の民間化が進んでいる。

上田市：公民館の市長部局移行への賛否の市民活動の紹介

職員の力量：人とのつながりをつくる。地域の情報収集が必要
地域に出る時間がない、市民の学びを支援する困難さがある

議員活動：以前社会教育に関わり議員になった例が語られ、現在社会教育に関わっている人が、政策決定過程に関わることの重要性を指摘。

5 成果・市政
への反映等

自らが学びたい時に何処でも学べる、生涯学習・社会教育。その拠点がどう運営されているかとても重要だ。静岡の図書館、横浜の図書館、北九州の図書館、比較すると、それぞれの姿が見える。私は静岡の応援団の一人のつもりだったので、社会のセーフティーネット図書館は、この結論でしっかりと運営してほしい。全国大会で、事例報告出来たことは、今後の静岡市にとってもいいことだ。

図書館の公平性が保たれる。社会教育・生涯教育の職員がたくさん参加していたが、静岡市はかなり少ない。このような形式、市民の声が聞ける場、市民の活動の姿が見える場に出て、他市の事例等聞いてほしい。今後も社会教育施設の充実と参加できなかった分科会の内容の吟味などし利点を取り入れていきたい。今後清水区に導入される、生涯学習施設への指定管理制度導入のことなど参考になる点を模索していきたい。